

寝屋川市 自然を学ぶ会 会報

No.105 2026.6.18
 発行 寝屋川市自然を学ぶ会
 会長 山田 晃
 事務局 寝屋川市高宮1丁目7-9
 千田 正喜 宅
 TEL 090-4036-0719



里山の自然を見る 定例自然観察会・東部丘陵 2026.4.21

う さ ぎ

うさぎに うまれて
 うれしい うさぎ
 はねても はねても
 はねても はねても

うさぎで なくなりやしない

ま ど ・ み ち お

うさぎに うまれて
 うれしい うさぎ
 とんでも とんでも
 とんでも とんでも

くさはら なくなりやしない

田中和雄編「ポケット詩集Ⅱ」童話屋 刊

目次

- (2) 行事報告 1 総会・記念講演「石ころは地球の花」
- (3) 行事報告 2 定例自然観察会 私市植物園・東部丘陵
- (4) 行事報告 3 定例自然観察会 淀川河川公園出口地区の野草
みんなの掲示版 春の宇陀カタクリと又兵衛桜
- (5) 私の散歩道「日本の始まりの地 飛鳥と藤原」
野外活動センターとの協働活動 行事への協力「森の探検」2 編
- (6) 参加・協力活動 田んぼの楽校・池の里クラブまつり
淀川まるごと体験会
- (7) みんなで作る自然資料室だより

- 子ども自然シリーズ講座 ズーム万華鏡 変身ボックス
スタッフ研修 国立民族学博物館 ねやがわ自然塾
- (8) 自然はすばらしい シダ植物シリーズ「トラノオシダ」
- (9) 自然界のふしぎ 土とは粘土とは ①土と生命
- (10) 私の自然観察 身近な昆虫 53「セダカシャチホコ」
- (11) 本の紹介「あかい みと とり」新会員紹介
- (12) 行事予定 子ども自然シリーズ 講座④⑥
定例自然観察会 ③水生生物 ④秋の淀川
みんなの掲示版 ③伊吹山 山室湿原

〈 2026 年度総会から 〉

「自然はおもしろい」をもう一步進める活動を!!

～ 自然観察会をより楽しく～

山田 晃



総会のようす

第 27 回目の総会を 4 月 29 日寝屋川市市民会館・講義室で開催しました。51 名の多くの方に参加していただき、2025 年度の活動報告、会計報告そして新役員の紹介の後、2026 年度の活動計画等を決定していただきました。総会后、西村壽雄さんから「石ころは地球の花」の講演を聴き、その後にごやかに交流会がありました。

◇身近な自然観察の楽しさを広げよう

淀川の土手を散歩している方から、「春の淀川」のガイドブックもいいけれど「秋の淀川」も欲しいね」とい

う声があつて、身近な自然ガイドブック「秋の淀川」が生まれました。春から秋、秋から春へと季節を超えて、私の散歩道は彩(いろどり)を増しました。

今年度、淀川の観察会は、秋も春と同じ場所を歩く計画です。季節を超えて楽しい観察会になればと思います。

また、環境フェアや、フェットエスポアール、イチヨウ祭などの参加・協力活動でも多くの子ども達や市民の方と交流を続けます。会報の活動の記録や計画をご覧になって、みんなで楽しい活動をより広く展開しましょう。



春の淀川・オニグルミ 秋は?

~~~~~  
 〈 2026 年度記念講演から 〉

### 『 石ころは地球の花 』の講演にびっくり

丸山 涼子

西村先生の石ころの話は灰色の月面写真から始まる。石ころの話に月?すると一転、流れる水の音が聞こえる色鮮やかな河原の写真に切り替わり、石ころの拡大写真がいくつも出てきて、最後にまた宇宙が現れる。地球を宇宙から眺めたり河原の石ころぎりぎりまで接近したり、これはまるでグーグルアースだ。しかし石の名前は一つも出てこない。



講演中の西村さん

地球のプレートが沈み込む時一緒に沈み込んだ海水の影響でマグマ



交流会のようす

が生まれ、マグマが冷えて固まると花崗岩や安山岩のようなつぶつぶを持つ石になる。砕けた石のかけらが水に流され海底に積もるとざらざら、しましま、カラフルな全く表情の違った石に変身する。

みんな地球に水があるからだ。月には水がないので変化に乏しい灰色の石ばかり。太陽系の惑星でこんな様々な石があるのは地球に水がある奇跡のおかげ。「ありふれた石ころ」と「水」の関係にびっくりしたお話でした。

第8回自然観察会 私市植物園 3月20日(金・祝)

参加者 43名

～樹木にも、野草にも可憐な花が咲いていました～

田中 英明

暑さ寒さも彼岸までの観察日和のもと6歳から80歳半ばまで43名の方が参加されました。



観察のようす



ミカドテントウ

集合場所から奥に向かった所に、二本のスズカケノキの果実が鈴状につり下がっているのが見られました(名前の由来は山伏)。すぐ近くの天野川沿いの樹林では、イチイガシの葉の裏についているミカドテントウを観察、とても小さくて、黒っぽい光沢がありました。日本固有の希少種でカイガラムシ類を捕食しているとのこと。



サンシュユ

梅林に向かう途中でオオカンザクラが満開でした。すぐ近くのシナアブラギリの下に果実や種子が落ちていました。種子を絞った桐油は、和傘などの防水加工に利用されていました。



キクザキイチゲ

進んでいくとウグイスカグラ、コブシ、サンシュユ、コバノミツバツツジの花やイズセンリョウの果実などを見ることができました。山野草エリアでは今年も春の妖精のカタクリやキクザキイチゲ、ミスミソウ、セントウソウなどが出迎えてくれました。

三々五々での観察後、ユリノキ広場で熱々のコーヒーをいただきながら、和やかな時を過ごせました。

三々五々での観察後、ユリノキ広場で熱々のコーヒーをいただきながら、和やかな時を過ごせました。

第1回自然観察会 東部丘陵 4月21日(火)

参加者 25名

～里山に春を求めて！～

栗田 泰子

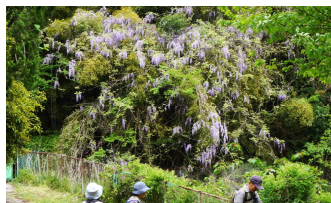
狭い車道を車に注意しながらヒメスミレ・ヒメツルソバ・ツタバウンラン・オニタビラコ・マツバウンラン等を横目に東部丘陵に向かいました。

カキドオシ・アカネ・センニンソウ・ウツギ・ホシダ等の湿地性植物を観察しながら沢を遡り上部に出ましたが、観察予定の植物が草刈りで消えがっかり。



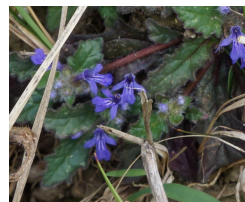
キツネアザミ

高良神社に向かう途中でイロハモミジの果実をまじかに見たり、ハルジオン・コウゾリナ・クサイチゴ等の春の花を観察。神社境内で小休止。西村さんから敷地斜面の岩石の成り立ちについて説明を受け、高本さんからは虫の楽しい話を聞きました。



ヤマフジ

人里に咲くノミノツツリやカタバミの仲間を見ながら車道を暫く歩くと里山の雰囲気を残す地帯に入りました。キツネアザミ、ギンラン・ヤブタビラコ・ミツバアケビ・キランソウ・ニガナ・オオジシバリ・ヘビイチゴ・ノビル・タツナミソウ・ギンギシ・ヤブニンジン・ノアザミ・ヤマフジなどが見られました。



キランソウ

視界が開けると目前に段々畑やレンゲ畑の広がる別天地に出ました。満開のレンゲ畑で昼食タイムを取り、皆で暫くこの貴重な風景を慈しみました。町中からいつの間にか消えてしまった心和む懐かしい風景がいつまでも残ることを祈願しながら帰路につきました。

第2回自然観察会 春の淀川 太間出口地区 5月6日(水・振休) 参加者 32名  
 ～42種の花に出会えました～ 木村 雅行

淀川の河川敷は帰化植物の占める割合も高く、決して自然度の高いところではありませんが、季節ごとに数多くの野生の植物の花に身近に出会える所です。

青色の花で見られたものは、もう花が終わりのオオイヌノフグリとタチイヌノフグリ、花卉の閉じたヒナギキョウ、咲き始めのセンダン、もう若い豆果をつけたナヨクサフジなど10種でした。

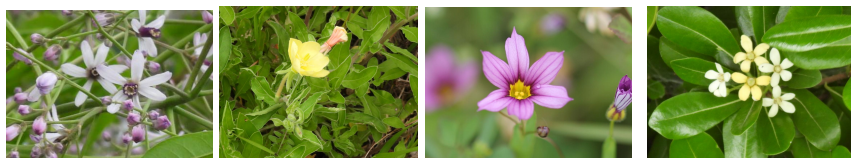
黄色の花で見られたものは、果実の断面が星形のオッタチカタバミ、赤い果実ができないオヘビイチゴ、まだ蕾の多かったツルマンネングサ、最近多くなったヒメブタナ、今日はお昼前でも咲いていたコマツヨイグサなど11種でした。

赤色の花で見られたものは、カラスノエンドウ、ユウゲシヨウ、ニワゼキシヨウ、ムラサキツメクサ、外見がそっくりのイヌコモチナデシコと種子の形で区別したミチバタナデシコなど12種でした。

白色の花で見られたものは、ナズナとノミノツツリ、古い花が淡い黄色に変わるトベラ、堤防敷で1輪だけ咲いていたハタケニラなど9種でした。



観察のようす



センダン

コマツヨイグサ

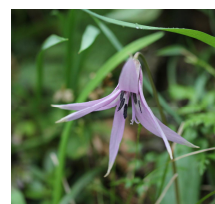
ニワゼキシヨウ

トベラ

また季節を変えて、「今日はどんな色の花にたくさん出会えるのかな。」などと考えながら散策するのも楽しいかもしれません。

第1回みんなの掲示板 春の宇陀カタクリと又兵衛桜 4月7日(火) 参加者 22名  
 ～心はさわやかな晴れ～ 中村 清秀

寝屋川を出発した時は曇り、予報は午後から雨で、少雨であって欲しいと願いながら宇陀へ。



カタクリ

訪れた森野旧薬園では案の定、雨。我々の気持ちを知ってか知らずか、迎えてくれたカタクリの花も申し訳なさそうにお辞儀をしていました。園の守りをされている原野さんも雨を気にしながら、フクジュソウ、セリバオウレン、アミガサユリ、イカリソウ等々、ガイドしていただきました。



イカリソウ

『かぎろひの丘万葉公園』で昼食でしたが、参加者の半数はバス内で。公園内のソメイヨシノは散り始めでしたがとっても美しかったです。

樹齢300年のシダレザクラ、又兵衛桜(本郷の瀧桜)は残念ながら満開の姿は見られませんでした。威風堂々の立ち姿は、さすが西日本随一の一本桜でした。

今年は雨に見舞われましたが、森野旧薬園を出た後に下校途中の数名の中学生からすれ違いざま“こんにちは”“こんにちは”と笑顔であいさつされ、こちらも思わず“こんにちは”と笑顔で返答。とてもさわやかな気持ちになりました。

自然は雨でしたが、心はさわやかな晴れとなった観察会でした。



原野さんの話を聞く



雨の又兵衛桜

## 私の散歩道 「日本の始まりの地 飛鳥・藤原」

上枝 美津枝

今から 1400 年前飛鳥時代、古代日本の政治や文化の中心地。今春は四季豊かな自然と歴史のある地をレンタサイクルを利用して歩きました。

国営飛鳥歴史公園から出発。キトラ古墳、壁画体験館、石舞台古墳へ。一帯が山々と樹木と棚田や野草の豊かな風景ばかり。巨石古墳と横穴式石室で遠方に桜と紫の花。中に入って見上げれば果てしない悠久の世界へ引き込まれるよう。次に酒船石。酒醸造か宗教儀式とも伝えられているも、今だに用途不明。そして飛鳥寺へ。飛鳥大仏はどこ



亀石

を見てる？聖徳太子ゆかりの橘寺を向いているような。橘寺塔心礎には可愛い花模様の彫り込み。法堂両脇に右近の橘、左近の桜の大きな樹。この橘の実が今のシークワサーだと知り驚きました。更に亀石。蛙にも似てるかも。お尻には甲羅。円らな目も愛嬌が。なぜ亀なのか？この世とあの世の道標かも。続いて鬼の俎(まないた)・雪隠。元は一つの石が分かれたよう。ゴールは高松塚古墳。広大な山の中に大きな古墳があちこち。

日本古代始まりの地を昔と同じ様な景色で古代の人々も見ていたのだと思うと深いロマンを感じます。飛鳥は歴史あるのに素朴で心の中が温まり、謎をめぐらせると好奇心が止まりません。古代から未来へ繋がる果てしない飛鳥へ出かけてみませんか？



国営飛鳥公園

## 野外活動センターとの協働活動

## □野外活動センター行事への協力

◎ めぐみ園 20名

5月27日(水)

協力者4名



飛べ！(飛行機)

あいにくの雨で、予定していた森の探検は出来なかったのですが、野外活動センターのポプラ(バンガロー)の2階でオオバコのすじ伸ばしや葉っぱの恐竜(アラカシの葉)・クルクルキャッチ・紙飛行機を作って遊びました。子どもたちは大はしゃぎで楽しんでいました。最後にどんぐりペンダントをもらって、大喜びでした。

◎ 寝屋の森こども園(31名)・成美の森こども園(47名) 5月29日(金)

協力者5名

好天に恵まれ、寝屋の森こども園が、午前「工作」午後「森の探検」を、成美の森こども園は、午前「森の探検」午後「工作」に分かれて行いました。

工作はどんぐりペンダント、葉っぱの恐竜、クルクルキャッチをしました。どの子も楽しそうに作ったり遊んだりしていました。「楽しかった人」と聞くとみんな元気に「はい！」と大きな声を出して手を挙げていました。

また、「森の探検」では、野外活動センターの敷地内や川沿いに歩いて草木の観察などを行い、子どもたちは楽しい時間を過ごしていました。最後に狸(剥製)を見つけ、触わったりして楽しく終わりました。



森の探検

## 参加・協力活動

**□田んぼの楽校** 4月24日(金) 協力者11名 地元5名 市役所1名

今年も、高宮のレンゲ畑で東小学校2年生(107名)の自然観察会がありました。「高宮の農地の今後を考える会」と都市1課(農政担当)と本会が協力して行われました。前日の大雨で田んぼがぬかるんでいましたが、子どもたちは気にするどころか、靴をびしょびしょにして、ぬかるみも楽しんでいました。

米作りの話、田んぼの虫や花の話、レンゲソウとミツバチの関係の話聞いた後、クラスごとに田んぼに入り9種類の野草を見つけるビンゴに挑戦しました。



指輪と腕輪

休憩の後、ビニール袋を持って再び田んぼへ。カエル探しに必死の子が。「おっちゃん変な虫がおる！」と、見るとオケラでした。レンゲやシロツメクサで腕輪を作ったり、タンポポの笛に挑戦したりして自然を楽しんでいました。タンポポの笛が鳴った時の笑顔が素敵でした。



シロツメクサ見つけた!

**□池の里クラブまつり** 4月11日(土) 参加者200名 協力者5名

池の里市民交流センターでの池の里クラブまつりの「工作教室」にどんぐり工作とブンブンごままで参加しました。他に、「チャレンジ!スポーツ体験」「いけさとマルシェ」「模擬店」があり、多くの人で賑わっていました。

どんぐり工作では、おしゃべりをしたりしながら楽しく作っていました。親子で作ったり、木の実や枝をたくさんつける子も。作った作品を「いいね!」と褒められ満足気でした。ブンブンごまは、こまに色鉛筆で色を塗り、糸を通して出来上がり。さっと回す子も。回し方を教えてもらって何回も挑戦しやっと回って大喜びの子も。



どんぐり工作

**□淀川まるごと体験会(春)** 4月26日(日) 参加者約110名 協力者4名

「春の河川敷で淀川を身近に感じよう!」とEボート乗船体験、浸水道路歩行体験、堤防決壊モデル実験、クラフト体験、ブランコ遊び等楽しみました。



ブンブンごま うまく回った

本会は、センダンの木の木陰で、どんぐりペンダントづくりやブンブンごまづくりを担当しました。ブンブンごまは最初コツをつかむまで苦勞していましたが、コツをつかみ回りだすと得意顔でした。

最後に、参加者全員でチガヤの苗700本を、事前に空けてある穴に植え付けました。チガヤは春の成長が早く、他の雑草を抑制する働きがあるそうです。

# みんなでつくる自然資料室だより

新会員も入って来られ、ねやがわ自然塾も復活し賑わっています。お立ち寄りください。

## □子ども自然シリーズ講座

①ズーム万華鏡 4月25日(土)

子ども10名(他15名)

ペットボトルに模様の描いた紙をかぶせて、引きぬいていくときの模様の変化を楽しみます。はじめに、ペットボトルの底にかぶせる銀紙を切り、しわにならないように苦労して貼りあわせます。次に、好きな模様を描いた紙をペットボトルにかぶせます。ペットボトルを動かすと銀紙に模様が映り、不思議なきれいな模様が次々と変化しました。近くの子と見せ合いっこして楽しみました。



楽しいな

②変身ボックス 5月17日(日)

子ども9名(他13名)

牛乳パックの小窓から見える絵が、紐を引くと幼虫から一瞬で成虫に変化します。牛乳パックにあらかじめ描いてある線に沿って、はさみでいねいに切り分けていきます。小窓に成虫の写真を貼り、移動させる紙に、幼虫の紙を貼って完成です。紐を引いて、幼虫が成虫に変身する様子を何回も確認していました。「すごすぎて、笑った」「家で、見せて驚かせたい」など。



うまく出来るかな!

## □スタッフ研修

国立民族学博物館 6月8日(月)

参加者16名

梅雨入りしていましたが、少し晴れ間も見られ楽しい研修になりました。万博記念公園の中央口に集合し、太陽の塔、ミャクミャクの像に迎えられ、博物館まで行きました。博物館では、朝鮮半島の文化、中国地域の文化、アイヌの文化、そして日本の文化の展示を見て回りました。

日本の展示を見て、「特に食器類で牛若丸の人形を作っている地方があり、印象深かったね」の感想。昼からは、ワオキツネザルの講演を聞くグループとアジサイ園を見に行くグループに分かれました。



すごいね

## □第8期ねやがわ自然塾

①「自然のしくみ」 4月22日(水)

受講生9名(他12名)

1.自然観察の楽しみ方

自然のしくみと

生態系について

2.寝屋川市の自然

自然に出会える

身近な観察地等

の紹介



受講中

②「身近な樹木Ⅰ」 5月13日(水)

受講生7名(他10名)

1.近隣で見られるサクラの仲間・ツツジの仲間の話

2.10種類の葉の

形から名前を

調べました。

葉に文字を書

きました。



この葉の名前は?

自然はすばらしい シダ植物シリーズ13

トラノオシダ 虎の尾羊歯 チャセンシダ科

天野 史郎

トラノオシダは住宅地の石垣、道端にごく普通に見られます。さらに里地から山地まで、どこにでも見られるシダです。根茎は短く、黒っぽい鱗片がつき、常緑性の葉を数枚つけます。葉は10~30cmになり、2回羽状複葉で、孢子葉と栄養葉の形が異なる二形性をしめします。孢子葉は大きく直立し、ソーラスは線形で葉脈上につき、下部の葉は次第に小さくなります。栄養葉は比較的小さくて地面に低く広がります。葉軸の表側には溝があり、裏面は黒紫色になります。

和名のトラノオシダは、虎の尾に見立てたといわれています。植物の場合、細長い花序をもつものにトラノオと名前がつけられることが多いようです。虎の尾羊歯という名は、江戸時代の本草学者にして後に東大教授となる伊藤圭介の命名だそうです。

ところで植物の学名をつけるときには、かならず裏づけとなる標本の指定が必要で、これを基準標本といいます。基準標本は、スウェーデンの植物学者にして、リンネの高弟のツェンベリーが箱根で採集したものが指定されています。この基準標本をもとに1794年に *Asplenium incisum* Thunb. と学名がつけられました。末尾のThunb. が命名者で、ツェンベリーの略称です。しかしその基準標本たるや実に貧弱なもので、トラノオシダを代表しているようには見えません。このようなことは、昔の外国人学者が日本で採集したものには、よくあることです。行動の制約があり自由に採集活動ができなかったとはいえ、こまったものです。

似たものにはコバノヒノキシダ、トキワトラノオがありますが、両種とも中軸の溝の中央が凸状になっているので、容易に識別できます。また、トラノオシダとトキワトラノオとの雑種としてサヌキトラノオが知られています。サヌキは香川県で発見されたことによる命名です。筆者はかつて宝塚市で採集したことがあります。

トラノオシダは、皆様のご近所にも普通にあると思いますので、ぜひ観察してみてください。



道端のトラノオシダ



トラノオシダ図 一部改変  
緒方正資 日本羊歯類図集より

**自然界のふしぎ**

自然界の不思議やその仕組みに迫るために前回の「海の火山 1～4」に続いて、今年度は「土とは 粘土とは1～4」をお届けしています。

土とは 粘土とは1

**「土と生命」**

西村 寿雄

唐突ですが「40億年前には地球に生命が誕生していた」という学者が現れました。生命誕生の起源については、宇宙からやって来たという説もありますが、今回は「地球説」にのっとってお話しましょう。

40億年前というとまだ地球が生まれて数億年のこと陸地はほとんど無かった時代です。そんな地球に生命なんて生まれていたのでしょうか。もちろん生命と言っても1mmにも満たない微細胞です。

40億年前の地球の海底には早くも「粘土」が登場していました。その「粘土」が生命誕生に大きくかかわっていたというのです。こんな話、あなたは信じるでしょうか。

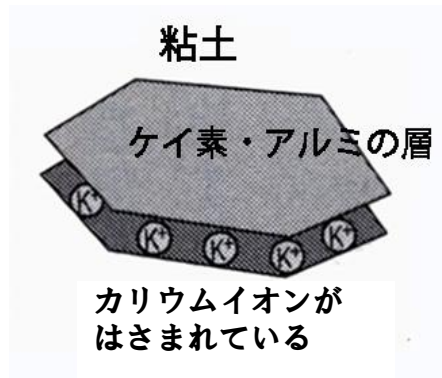
今回はまず1回目ですので、土を見直してみましよう。

岩石が崩れると細かく砕かれ、川に流され海岸で洗われて石はますます細かくなりその砕けた石は大きさによって「礫(レキ)」「砂」「シルト・泥」と呼ばれていきます。礫岩、砂岩、泥岩の生まれる元になっています。このことはみなさんご存知の通り。当時はその陸地はほとんどなかった時代です。

40億年前の海底に細かい土がだんだんたまり0.002mm以下の微粒子がたくさん集まり出しました。それを「粘土」と言っています。「粘土」はよくみると図のような膜を持っています。「粘土」の成分は、主にケイ素とアルミニウムで膜を作っており中にカリウムなどの原子を挟んでいます。泥団子の表面がピカピカに光るのはこの膜が横に規則的に並びシート状になるからとも言われています。

その「粘土」があるおかげで地球に生命が誕生し進化を促してきたと言うのです。「粘土」にはどんな働きがあるのでしょうか。

次をご期待ください。



## 私の自然観察

## 身近な昆虫 53

## — 背中がモフモフが愛らしい「セダカシャチホコ」 —

高本 憲二

5月18日の朝、マンションのロビーで、少し変わった姿をした美しい蛾に出会いました。全体的に上品な薄茶色～黄褐色をしており、前翅（まえばね）には繊細な横線と、左右に小さな黄色い紋がポツンとあるのが印象的です。



調べてみたところ、これはシャチホコガ科の「セダカシャチホコ（背高鯨銚）」という種類であることが分かりました。一番の注目ポイントは、その名前の由来にもなっている胸の「背中」の部分です。写真をご覧くださいと分かる通り、まるで動物のたてがみかリーゼントのように、長くてフサフサした毛束がツンと上に突き出ています。この立体感のある「モフモフ感」がなんともユーモラスで愛らしい姿をしています。

セダカシャチホコの幼虫は、身近な雑木林にあるコナラやクヌギ、ミズナラといったブナ科の植物の葉を食べて育ちます。成虫が見られるのは主に5月～8月頃。夜、明かりに引き寄せられてやってきたものが、朝になってロビーで一休みしていたのかもしれません。

普段は地味だと思われがちな蛾の仲間ですが、じっくり観察してみると、そのデザインの精巧さや独特のフォルムに驚かされます。身近な足元や壁にも、面白い自然のドラマが隠れているのだと改めて実感した朝のひとコマでした。

- 「シャチホコ」の由来：

近縁種の「シャチホコガ」の幼虫は、敵に襲われると頭とパタパタするお尻を高く持ち上げ、お城の「名古屋城の金のシャチホコ」のようなポーズで威嚇します。そこから科名がついています。「ただしセダカシャチホコの幼虫（右写真）は、そこまで激しいシャチホコポーズはしません」。



- 触角によるオス・メスの見分け方：

触角が「クシの歯（フェザー状）」のようになっていればオス、「糸状（シンプル）」であればメスです。写真のものは糸状をしているのでメスでしょうか？

図書紹介

～こんな本が出たよ～

『あかい みと とり』 多田多恵子 ぶん 江口あけみ え

かがくのとも 1月号 福音館書店

久しぶりの多田多恵子さんの児童書が出た。

「ようこそ!葉っぱ科学館」などの著書がある植物専門の多田さんだが鳥博士の上田恵介さんが監修に加わっている。鳥は赤い実を好むことは知られているが、この本は子ども向けながらいろいろ情報が多い。

まず初めのページは赤い実のなる木もある雑木林、「ほうせきみたいに ひかっている。」と書くノイバラの絵。次ページはそこへヒヨドリがやって来ている絵が出る。ヒヨドリたちは赤い実をパクリ、パクリ、口の中にほうり込む。次の絵はヒヨドリのうんこ。なるほどノイバラの実はこうして広がっていくのかわかる。じつは実と思っていたのは果実、ヒヨドリが食べていたのは果肉

の部分のみ。次にジョウビタキもやって来る絵も出る。ジョウビタキも赤い実をパクリ、ふんをばらまいていく。次の絵は、鳥によって蒔かれたタネから芽を出し大きく育っていくノイバラの絵。なるほどこうして植物は広がっていくのがよくわかる。次は赤い実をつけるいくつかの植物の紹介。野にはこんなにもあるんだとわかる。次の絵は、それぞれの植物の実とタネの紹介。実と言ってもタネはそれぞれ違っているようすがよくわかる。次の絵は、実のまん丸なのは、実の形が鳥に食べられ易い形だとか。なるほど。次の絵には、植物の実と言っても、赤いとはかぎらない。でも、実はみんなまん丸。次の絵では意外なタネが出てくる。タネには、にがかったり毒のある実もあるらしい。さすが鳥たちはよく知ってる。少し実をついばんですぐに飛んでいく絵が出る。なるほど鳥は味で実を区別しているのか。

ここで、考えてみようのページ。もし、鳥にとって、おいしい実かおいしくない実か、人間が見てどこでわかる? いろいろ考える本になっている。

2026年1月

<西村 寿雄>



絵手紙紹介



作：内田桂子

新会員紹介

会員数150名

(敬称略)

竹井 隆英

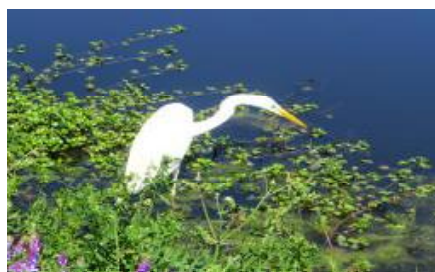
竹井 淑子

# 行事予定

□定例自然観察会③

**寝屋川の自然観察** ～水生生物～

- ◇日時：2026年7月25日(土)  
9:30～12:00 雨天中止
  - ◇集合：寝屋川市役所玄関前 9時15分  
又は直接幸町公園へ 9時30分
- この行事は寝屋川市環境総務課と共催です。  
\*詳しくは連絡資料①をご覧ください。



ダイサギ 2026.5.春の淀川

□定例自然観察会④

**秋の淀川の自然観察**

- ～太間地区から出口野草地区～
  - ◇日時：2026年9月23日(水・祝)  
9:30～12:00 雨天中止
  - ◇集合場所：太間地区・駐車場
  - ◇集合時刻：午前9時30分
  - ◇持ち物：水筒、雨具等
  - ◇案内：木村雅行さん
- 身近な自然ガイドブック「秋の淀川」  
\*参加の申し込み不要、当日集合場所へ  
\*詳しくは連絡資料②をご覧ください。

□第2回みんなの掲示板

**伊吹山・山室湿原**

- ～高山植物・湿原の自然～
- ◇日時：2026年8月25日(火)  
7:45～18:30 雨天中止
- ◇集合：アルカスホール前 7:45
- ◇持ち物：弁当、水筒、帽子、雨具等
- ◇参加費：8,000円程度 定員22名
- ◇参加申し込み：8月12日までに下記へ  
中村 090-8750-5738  
千田 090-4036-0719

\*マイクロバスを利用します。



ゲンゲ 2026.4. 田んぼの染校

## 子ども自然列々講座

<第4回>

### 夏休み自由研究のヒント

- ◇日時：7月18日(土) 10:00～12:00
- ◇参加対象：小・中学生 20名
- ◇プログラム

「生きもの大好き」 山本 由美子  
「メダカの飼育と観察」 中井 新一  
\*参加者には、メダカのプレゼントがあります。

<第6回>

### おもしろ科学実験

- 「空気と水の科学」 坂野玲子  
～小便小僧のふしぎ～
- ◇日時：8月1日(土) 10:00～12:00
- ◇参加対象：小・中学生 20名

\*会場：自然体験学習室 Tel 072-839-6882  
市立中央図書館 西分室内

\*参加申込7月2日(木)より、直接又は電話で  
自然体験学習室へ 先着順

\*参加費 無料

\*上記二つの行事は、自然資料施設運営スタッフの会と共催です。

### 編集後記

~~~~~  
 本会発足27年目の会報105号をお届けします。
 今年度も会報本編(12頁)は全頁カラー版でお届けすることができました、いかがだったでしょうか。
 行事の報告だけでなく、「自然はすばらしい」「自然界のふしぎ」「私の自然観察」の3編は今年度も連載させていただきます。会報について行事の参加の折などに感想等お聞かせいただければ幸いです。また、私の散歩道についての寄稿もお待ちします。
 ~~~~~